



ストリートジャム

STREET JAM

——ダンスが楽しみで、毎日を頑張れる

船堀コミュニティ会館の一室から軽快なヒップホップが聴こえてくる。扉を開けると、20代を中心とした20名ほどのメンバーが全身でリズムを刻み、真剣な眼差しでレッスンに取り組んでいる。

STREET JAM は東京・千葉に4つの拠点をもち、総勢80名で構成されるヒップホップダンスチームだ。障害の種別を問わず参加することができ、未就学児も親子で参加している。学齢期を終えたメンバーは作業所に通うか、企業就労しながら余暇活動として楽しんでいる。

あるメンバーはこう話す。「STREET JAM に入ってたくさんの友達ができました。みんなと会える、一緒にダンスできる。それを楽しみに毎日頑張っているんです。」

——みんなにとっての楽しみをつくりたい



発表に向けて特訓するメンバー

STREET JAM 代表の中久喜さんは、かつて福祉作業所に勤務していたことがある。当時、通所者から「ここで働いて稼いだお金を私はどうやって使ったらいいの？」と聞かれ、不意を突かれたような衝撃を受けた。お給料で美味しいものを食べに行ったり、友達と遊びに行ったり、余暇は誰にとっても必要なこと。ところが彼らのなかには余暇活動を楽しむ術を知らない人もいる、もしくは今の社会には一人でも楽しめる環境がないのだと気づかされた。自宅と作業所を往復するだけの毎日を少しでも変えてあげたい。一念発起した中久喜さんは、誰もが生活のなかで楽しみを見出せるようにと、STREET JAM を立ち上げた。

指導スタッフの岡田さんと境さんも想いは同じだ。「みんなにはカッコよくダンスを踊ってほしい。でもカッコよさよりも大事なのは一人ひとりが楽しんで踊ること。上手に踊れなくてもいい。踊っている時間がその人にとって大事な時間になればそれが一番。」そう語ってくれた。

—— 今日スタジオには笑い声がこだまする。



親子でにぎわうキッズの部